



# たかといちどいだよ

平成29年11月 第26号

たかといちどい保育園

今年は秋晴れの中での親子ふれあいデーと思っておりましたが、10月すべての週末が雨という今までにない天候で、1週間延期しても外ではできなかったため、苦肉の策として園内での内容に変更いたしました。私ども職員も初めての事で不手際もあったかと思いますが、保護者の皆様のご理解と何より子どもたちの力で何とか終わることができました。特に保護者の皆様には狭い中での人数制限や見る時間などにもご協力いただき本当にありがとうございました。乳児組は、親子演技が終わるとすぐ降園のため短い時間の保育園滞在となり、我が子が成長してこれからこうなるであろうという大きい組さんの演技などを見ていただけなかったのが、とても心残りです。

幼児組さんは、保護者の方に見ていただくにあたり、急な立つ位置の変更にも対応し、頑張ってくれたことに成長を感じ嬉しく思いました。

また、外で予定しておりました親子体操を急きょ園内で行いましたが、親子の素敵な笑顔がたくさん見せていただき心がやすまりました。皆様のご協力のもと、無事終わることができ深く感謝いたします。

越智 るみ子

## 子どもの「足育」

成長過程にある子どもの足は本来歩くことで健康に育ちます。しかし最近は、生活の中で歩く機会が減り、「長く歩けない」「疲れやすい」など、足だけでなく体全体への影響が出てきています。子どもの足は土踏まずのアーチが未発達なため、全体重を足で支えきれません。だから靴でしっかり支える必要があるのです。現代は小さな子どもを歩かせる環境が少なく、ベビーカーや車での外出が多くなり歩く機会が減っているため、土踏まずができにくいと言われていました。また、ハイハイを十分にする前につかまり立ちをするようになると、立つための筋肉が鍛えられていないため、その後の歩き方に影響が出てくる場合もあります。園では裸足で過ごし、いろいろな場所をハイハイしたり、歩いたりできる活動を、意識して取り入れるようにしています。

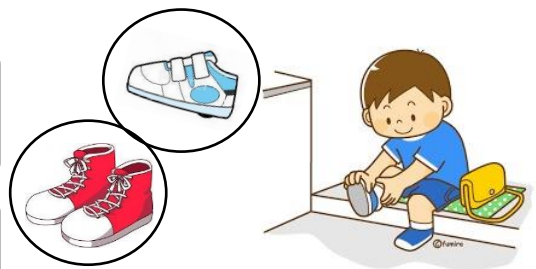
### 【子どもの靴選びのポイント】

足を靴のかかと側につけて、つま先1cm程の余裕がある状態のものを選びましょう。前は爪を押しつぶさないよう、高さがあるものを。かかとは柔らかすぎず、固定できるものを。

子どもが小さければ小さいほど、くるぶしくらいまでのハイカットの靴を。個人差がありますが、足の骨がある程度形成される5～6歳くらいまでは、日常履きには丈の高いものがおすすめです。

靴は自分で脱ぎ履きするものなので、手軽に扱えるマジックテープが人気ですが、細かい調整がきき、間違っただけで脱げる心配が少ないのはひも靴です。マジックテープつきの靴なら、ベルトが金具に通されていて、引き返して留めるタイプがおすすめ。

サイズが13cm前後から15cmくらいまでの時期は、足がどんどん大きくなります。子どもの足をこまめにチェックし、履いた時の見目がはち切れそうになっていたり、履かせにくくなってきたりしたら、買い替えを。



子どもは小学校に上がると、「早く脱ぎ履きしないといけない」「一人だけみんなと違う靴は嫌だ」など、別の価値基準にとらわれがちです。そのため、大人が子どもの靴を十分にケアできるのは小学校に上がる前の6歳までと言われているそうです。子どもが将来自分で靴を選べるよう、大人が足、そして靴について知っておきたいですね。 岡本 理恵



## あさひぐみ



先月は、なぐり描きやシール貼りをして遊びました。なぐり描きでは、月齢の高い子どもはぐるぐる描けるようになり、月齢の低い子どもも、画用紙にクレヨンをトントンしたり、左右に手を動かそうとしたりし、保育士の真似をして楽しんでいました。慣れてくるとここに笑顔で、もっとしたいという姿も見られました。また、指先も器用になってきました。シール貼りでは、台紙から自分ではがせるようになった子どもも多く、貼ったり、はがしたりすることを喜んでいました。出来上がった作品を、「できたよ！」と言う様に、嬉しそうに保育士に見せていました。

自分で食べたり、飲んだりすることにも少しずつ慣れてきた様子の子もたち。手づかみで食べる姿や、スプーンやコップを上手く口に運ぶ姿が多く見られるようになり、食事をすることを喜んでいきます。顔や手にご飯粒をたくさん付けながらも、美味しそうに食べる姿がとても微笑ましいです。今後も自分で食べようとする姿を認め、さりげなく援助する事を心がけて、満足できるよう関わっていきます。

今月は、曲に合わせて手作り楽器を鳴らしたり、踊ったりして音楽に親しめるような遊びを計画しています。また、体調に留意し、衣服の調節を行いながら、少しずつ寒くなる季節に負けず、健康に過ごせるようにしていきたいと思います。

河原 彩夏



## ひかりぐみ



先月の楽器遊びでは、新たにカスタネットを取り入れました。以前は鈴が人気でしたが、カスタネットやタンブリンにも興味をもち、「これがいい！」と好きな楽器を選び、歌に合わせて楽しそうに鳴らしていました。また、紙皿カスタネット作りでは、「かきかきする！」「ぺったんする！」と言いながら、なぐり描きをしたり、シールを貼ったりして楽しんで作る姿が見られました。歌が大好きなひかりぐみの子どもたち。これからも音楽に親しみがもてるように様々な歌をうたったり、楽器あそびをしたりする予定です。

鼻水がよく出る子どもが増えてきました。鼻水が出ると「はなでた」と保育士に知らせて拭いてもらったり、自分で拭こうとしたりする姿が見られるようになってきました。これからは自分でしようとする姿を見守り、援助しながら鼻のかみ方を知らせていきます。気温も下がり、風邪をひきやすいこの季節、一人ひとりの体調に留意し、健康に過ごせるようにしたいと思います。

今月はごっこあそびをして、お店屋さんになりきったり、簡単な言葉のやりとりをしたりして楽しめるようにしたいと考えています。また、散歩に出かけ、葉っぱやどんぐりを見たり、触ったりして秋の自然を楽しむ計画です。

谷川 美里



## 11月の予定

人形劇鑑賞

1日(水)

体育あそび

9日(木)

誕生会

10日(金)

※今月は1回です。

避難訓練

10日(金)・15日(水)

発育測定

24日(金)～28日(火)





## にじぐみ



最近食事の際に、「なんのやさい?」「これはだいこん?」「たべるからみててね」と言い、頑張って食べる姿がよく見られます。たくさん食べるようになりおかわりをする子どもも増えてきています。友だちの姿を見て自分も頑張ろうと食べているので、今後も野菜の名前を知らせ、興味を持って色々なものが食べられるように援助していきます。

製作では親子ふれあいデーで使用するりんごの木にみんなで色を塗りました。普段は一人ひとり別々で製作をしています。しかし、今回は2人で画用紙にクレパスで模様を描いたり、3~4人で段ボールに幅広い筆で色を塗ったりしました。「〇〇ちゃんといっしょにやる」と言い、友だちと色を塗ることを楽しんでいました。幅広い筆を使った時には、「これ、おっきいなあ」「いっぱいいろつくね~」といつも使う筆との違いに気づき、保育士に話す姿も見られました。これからも様々な素材を取り入れて製作を楽しめるようにしたいと考えています。

今月は、「おおかみさん今何時?」や「もぐらどん」というわらべうたやふれあいあそびをし、クラスみんなで遊びたいと考えています。また、肌寒くなってくる季節なので、衣服の調節をして体調の把握をしっかりと行い、健康に過ごせるようにしていきます。

許斐 祐美



## きりんグループ



少しずつ気温も低くなり、感染症が流行る季節になりました。以前から行っていますが、手洗いうがいをしっかりとできるように配慮し、予防に繋がっています。子どもたちも自分で気付いて、「おそとからかえってきたからガラガラうがいしよう!」と進んで行っています。これからも手洗いうがいだけでなく、十分な休息をとったり気候に応じて衣服の調節を行ったりすることの大切さを、子どもたちに話していきたいと考えています。

お部屋では、ままごとやお店屋さんごっこをしてたくさん遊びました。レストラン、八百屋さん、魚屋さん等、色々なお店を開き、「いらっしゃいませー!」「これください」と役割を交代しながら、やり取りを楽しんで遊ぶ姿が見られました。11月は秋祭りごっこを行うので、遊びの中で必要なものを子どもたちと一緒に考え、作りながら、更にごっこ遊びを盛り上げていきたいと思えます。

今月は、寒くなってきましたが機会を見て散歩に出かけ、葉っぱや木の実を拾ってスタンプにしたり、自由に製作できるようにしたりし、秋の自然にたくさん触れて遊ぶ予定です。

中丁 紗穂



## ぞうグループ



先月は、牛乳パック、ティッシュやお菓子の箱を使って、廃材遊びをしました。日本や世界の様々な有名な建物の写真を見て「うわあ~こんなのがつくりたい~」「たかいのつくる~」と言い、興味津々な子どもたち。2つのグループに分かれ何を作るか話し合っ決めて、「神戸タワー」と「サグラダ・ファミリア~ぞうグループバージョン~」作りが始まりました。「こっちにこのはこくっつけよう」「ここテープでとめたらしっかりくっつくよ」と皆で協力して遊ぶ姿は真剣そのものでした。また、制作途中の部分もあり、自由に続きができるよう保育室に廃材を置いておくと、「もっとおおきくしよう」「ここここ、がったいしよう」と子どもたち中心で遊びを進め楽しんでいきます。生活面では、「自分のことはじぶんで」という意識が高まり、身の回りの事に意欲的に取り組んでいます。「ようふくきれいにたたんだ?」「こうやってたたむんだよ」と友だちと確認をしあい、協力して最後まで自分たちで頑張っています。4、5歳児は自分の事だけでなく、3歳児の手助けもし、周りの友だちの様子も気にかける姿が見られ、成長を感じます。今後も、自分で取り組む姿を見守り、頑張った気持ちを十分に認める事で達成感や喜びが味わえるよう関わっていきます。

今月は「秋祭りごっこ」をテーマに、お店屋さんに必要なものやおみこしなどを作って、ごっこあそびをし、保育士や友だちとのやりとりを楽しめるようにしたいと考えています。

長田 麻里